

(様式1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 9 月 8 日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900142		
法人名	医療法人社団 岡崎医院		
事業所名	ふれあいの家 えんや		
所在地	広島県三次市十日市西三丁目13番1号 (電話) 0824-65-0722		
自己評価作成日	2017. 7. 27	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900142-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900142-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年8月29日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

法人の理念である「その人らしく 生きる力に寄り添うチカラ」を念頭に、ご本人の思い・家族の意向を大切に、その方その方の個別ケアが実践できるよう頻回にカンファレンス・振り返りを行って統一を図っている。入居される方の背景も多様化しており、職員もその方その方の今までの生活を理解し対応して行こうと言う思いは強くなっている。ユニットにこだわらず一つの家ととらえ、入居者の方々が建物内を自由に行き来し思い思いに交流をとって頂いており、スタッフ全員でその方その方を支えていける体制をとれるよう心がけている。法人のバックアップ体制により、事業所のみの方々のケアにとらわれず医師・看護師・リハビリ専門職・管理栄養士等の多職種連携がとれるよう連絡を密にしている。外部の関係機関にも、助言や情報提供等協力をとっている。また「地域とともに 地域のために」の基本理念のもと、地域の方に気軽に来所いただける機会、認知症に対する理解を深めて頂く機会を作っている。また認知症の方々が地域で暮らしていく事ができるような町づくりを目指し、入居者の方々に地域の行事への参加や日々の外出、庭での作業等で入居者が生き生きとされている場面に触れて頂けるよう努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

中山間地域の事業所として町の歴史と風土に融和した取組みが特記される。事業所の名称の「えんや」は、三次地方の方言で、木漏れ日がやさしく注ぐ「縁側」を意味し、隣人が気軽に立ち寄り寛ぐ…、その情景をイメージしている。入居者の大正・昭和を生き抜いた時代背景と生活習慣に応じた「設えとケア」が随所に見られる。この町の「常会」という相互扶助の風習をこの事業所で具体的に再現し、入居者が共に助け合い、いたわりながら暮らす、温かい家族の生活ぶりは、ふと訪れた人たちにも、都塵を離れた里山の心の安らぎと寛ぎを与えてくれる。その背景には、運営母体の三代続く医院（医療法人）を中核とする医療・介護の相互連携による「人の一生を医療と生活の両面から総合的に関わり、支える。」という志向が介在している。これも法人の基本理念「地域と共に、その人らしく、生きる力を引き出す…」の具体化である。運営推進会議においても、里山の医療・介護は如何にあるべきか、と多角的な視点から、議論を重ね、その討議結果は、地域に溶け込んだ「認知症ケア」の中に織り込まれている。

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人理念を玄関に掲示している。</li> <li>法人理念をケアの目標とし、チームで取り込んでいる。</li> <li>取り組みのひとつとして、朝のミーティングでその日の利用者支援の目標としてスタッフ全員発表している。</li> </ul>	<p>法人の理念の「医療と福祉、介護は地域全体で創る、地域の宝としてみんなで育てる…」に呼応して、「えんや」では、「介護はサービス業であり、職員は、その資格を有したプロ集団である」との基本方針を掲げ、職員の意識統一を図り、日々の働きの中で体现させている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事には地域の方へ地域の広報誌にチラシを入れる等して、お知らせをしている。</li> <li>とんどや盆踊り等、地域からの呼びかけも頂いて参加している。</li> <li>「常会」や地域内の清掃活動に参加し、地域の一員としての役割も果たしている。</li> </ul>	<p>入居者も左記の「常会」という言葉に懐かしさを覚え、村社会の互助による農作業、結婚式から弔いまで、集落の中ですべて完結する風習が温存されている。地域住民に温かく見守られ、各種行事に「常会」の一員として大きな役割を担い、交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症アドバイザー、キャラバンメイトを配置して、地域の相談窓口として利用して頂けるようにしている。また、サロン開催に向けて、事業所でも検討を行うことにしている。</li> </ul>	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の内容を全ての職員が確認できるように会議録を作成している。また、ミーティングを行い、改善点について話し合い、取り組みを行なっている。</li> </ul>	<p>「えんや」を中心に、地域の医療・介護の諸問題を討議解決する実効性に富んだ会議開催である。方言を交えた詳細な(※)会議録から、その状況がよく読み取れる。行政関係者、民生委員、消防団、認知症家族の会など多方面の出席者の意見・気付きをケアに活かしている。</p>	<p>※補足：左記の会議録に、「えんやの灯りは、この地域の安心、安全、希望の灯りです。」と、民生委員の発言が記述されている。この発言は、「里山の満天の星の下、地域の輝く明かり」として、「えんや」のこの地における期待値と位置づけを、よく表している。</p>
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議のメンバーに、市担当者が在籍されており、意見交換と情報の提供を行なっている。現在、認知症家族の会へも毎月参加の入所者様があり、参加支援を行っている。</li> </ul>	<p>上記の会議には、三次市担当者、地域包括支援センターの担当者が必ず出席し、中山間地域の利点を活かした連携体制が築かれている。加えて、運営母体の医院長も医療・福祉の広角的な視点から、市町の会議への出席など連携促進を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b>  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修への参加、カンファレンスの実施を行い、理解と全職員でのケアの実施を行なっている。</li> <li>・夜間の防犯目的で夜6時から翌朝7時まで玄関の施錠を行っている。</li> <li>・入居者の居室の施錠については基本行動制限はないが、えんや周りが側溝や田んぼ、川があるため、周辺症状の悪化で命の危険につながるような状況がある場合は家族、主治医と検討し、ご家族ご本人の了承を得て、安全確認の為に行なっている。</li> </ul>	法人の広報資料に「身体拘束の排除と理念および方針」を特別枠を設けて大きく明記し、それに伴う職員教育を徹底させ実践を図っている。左記の自己評価にもある施錠については、当事業所名の「えんや」＝縁側の開放的な運営方針と裏腹の関係にあり、管理者としても、みなさまに誤解を招かないよう、苦慮している状況が伺える。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b>  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修への参加により高齢者虐待に関して学ぶ機会を持っている。また、研修に参加した職員は施設内での研修を開催して他の職員に伝達をしている。</li> <li>・不適切なケアについて等、施設内でのアンケートを実施して、自分たちのケアを振り返る機会を作っている。</li> </ul>		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修への参加、また参加した職員による施設内での研修を行なっている。また、担当者会議で家族にも説明することで活用を行なっている。</li> </ul>		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b>  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時には十分な時間を取って入居者や家族に説明を行い、不明な点が無い様に配慮している。</li> </ul>		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険更新時や状態変化のあったとき等に、定期的なカンファレンスを実施してご家族のご意見や希望を頂いている。</li> <li>・入居者からは、日々の会話や行動の中から要望を汲み取ることで適時対応している。</li> </ul>	東京など遠隔地に在住の家族にも、介護保険更新時には、必ず同席するよう無理を言うなど、全ての家族の意見を運営に反映させている。「家族との良好な関係を保つことは、全て本人のため…」と言う方針を堅持している。	

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・毎朝のミーティングやカンファレンスで職員が意見を出しやすいように、コミュニケーションを図り意見を出せるよう行なっている。</p>	<p>定期的なミーティングやカンファレンスのほか、法人の準備した携帯電話を全職員に貸与して、代表者・管理者に何時でも意見・提案・気付きを発信できる体制をとっている。それがラポール（親和的・共感的関係）の醸成となり、職員の意欲と資質向上に結びつけている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・定期的に個人面談を実施し、職員の思いや問題点を把握し、働きやすい職場環境に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・代表者は職員一人ひとりのスキルを把握し、職員に応じた研修機会を設け支援を行なっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>・法人の代表は、多職種交流会や研修会を主催し、職員へも参加の機会を提供している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>・利用前より面会・聞き取りを行い、入居に当たって本人の要望、不安、生活歴等を把握し安心できる関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居前より家族と十分話が出来るように、不安や要望などを伺い準備を行なっている。</li> <li>・担当職員を決めコミュニケーションを図り関係作りに努めている。</li> </ul>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居前の情報収集を細かく行い必要とされる支援を見極め、他のサービスも含め対応に努めている。</li> </ul>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何事も利用者中心に行い、一緒に過ごしている。</li> <li>・利用者同士の支えあう場面や気遣いが引き出せるように支援をしている。</li> </ul>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面会や外出時の家族の役割を計画書に盛り込み、一緒に本人の力になれるよう関係を築いている。</li> <li>・職員は家族と本人がうまく関われるよう本人の状態を説明したり、認知症に対する理解、受け入れができるように相談に応じている。</li> </ul>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所に入居者の友人がいて、玄関に行かれたとき友人宅のある場所などの話をしたり、思いを保てるように支援をしている。</li> <li>・参加している集会や地元の行事などには一緒に日程の確認を行い、送迎や付き添いの支援を行なっている。</li> </ul>	<p>開放的な運営が奏功し、近隣の人はもちろん、元職場の同僚、幼馴染の人、スポーツクラブの友人など「まめかいねー」（元気ですか）と方言によるあいさつを交わし、気軽に訪ねて来ている。都市部では見られない親密な交流が続いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者同士の関係を把握し、孤立しないように関わりあえる関係が築けるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・サービス利用(契約)が終了しても今までの関係を大切にしながら必要に応じて、本人と家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、困難な時には本人本位に検討している。	職員の一日の活動は、(※)朝夕の挨拶に始まり、常に入居者と個々に向き合っており、心に響く言葉がけで、意志の疎通と意向把握に努めている。意向、要望、各自の可動能力を「入居者活動表」に詳細に記録して、全職員で情報共有を図り、介護計画等と連関させている。	<b>※補足：朝夕の挨拶について</b> 職員は、朝夕に入居者の一人ひとりと顔を合わせて、朝は「おはようございます。今日もよろしく」。夕方には、「今日は、ありがとうございました」と、「一期一会」の心を持って挨拶を励行している。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・一人ひとりのこれまでの生活環境、暮らし方、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・一人ひとりの健康、心身状態の把握に努め本人の有する力を検討し把握している。		

自己評価	外部評価	項 目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人がよりよく暮らせるように課題とケアのあり方について本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意向を反映している。毎月モニタリングを実施している。</li> <li>・必要に応じてカンファレンスを行い、計画を修正している。</li> </ul>	<p>家族を巻き込んだ、より深いアセスメントにより、全職員で作成の「入居者活動表」を参考に、一人ひとりの可能性、意欲を引き出す介護計画を作成している。毎月のモニタリングと随時開催のカンファレンスで適切に計画を修正をしている。</p>	
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の様子やケアの実践、結果や気づきや工夫を個別記録に記入し、スタッフ間で情報を共有しカンファレンス時にも活用、参照している。</li> </ul>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対して法人全体でバックアップ体制をしいている。</li> </ul>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの暮らしを支えている地域の資源を把握し、催しや行事に参加し、ボランティアの方に協力をいただき施設内でも楽しんでいただけるよう支援をしている。</li> </ul>		
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診診断</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診は本人および家族などの希望を大切にし、納得が得られた「かかりつけ医」と事業所の関係を築きながら、職員が受診に付き添いを行なう等の支援を行っている。</li> </ul>	<p>馴染を保ち、従来のかかりつけ医を継続し、本人・家族の意向を大切にしている。内科のほか眼科・歯科の訪問診療も含め、毎日のように「かかりつけ医」の来診がある。服薬についても担当職員を決め、「処方の日」をカレンダーに明記して、服薬管理を徹底させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の携帯電話を使用し24時間連絡が取れる体制を整えている。</li> <li>・状態の変化や内服等について相談ができる体制を整えている。</li> </ul>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院中に定期的な治療だけでなく医療機関に情報の提供をしたり、相談に乗っている。</li> <li>・家族と一緒に病状説明等に立会い、方針についても検討するようにしている。</li> </ul>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に看取りの対応について家族に説明をしている。</li> <li>・事業所でできる事を説明し利用者、家族の意向を重視した上で支援ができるように、カンファレンス等で主治医・看護師とも情報の共有を行なっている。</li> </ul>	<p>法人の「医療・人・介護空間」を有機的に組み合わせ、尊厳ある支援をしている。特に、かかりつけ医を中心に職員の「介護力」を活かした終末期の支援を強化している。これは「在宅での看取りは、医療職はいない。すべて家族中心で介護している」という見解によっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に研修を実施している。また救急や応急対応マニュアルを解りやすく作成し、全職員が対応できるように取り組んでいる。</li> </ul>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に避難訓練を実施している。</li> <li>・地域の消防署や消防団とも連携し被害時の避難場所の確認や連絡方法、協力体制等について確認、指導を受けている。</li> </ul>	<p>定期的な避難訓練のほか、消防団の指摘もあり、地震を起因とする火災対策と(※)「昭和47年7月豪雨災害」の歴史を踏まえ、今後は水害対策を重点項目に挙げている。地域の協力を得て、総合的な避難方法など詳細に検討している。</p>	<p>※豪雨災害について(補足)</p> <p>三次中心地に、島根県を源流とする「江の川」と「馬洗川」「西城川」の三つの河川が巴状に合流していてS47年に最大時間雨量40.0(mm)の雨量で氾濫し、死者・行方不明者39人、農林地・公共施設など約640億円の被害記録がある。</p>



自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者や家族の立場に立って一人ひとりにあった声かけや接し方を心掛けている。</li> <li>会話や周りの環境にも気を配りプライバシーの確保に努めている。</li> </ul>	この項目を認知症ケアおよび事業所運営の根幹であると捉えている(代表者の言)。その遂行の難しさもよく認識されており、職員教育を徹底させ、日々の行動を振り返り、その完遂に向けて、全職員でその意識を高め、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話や言葉だけでなく、表情やしぐさ等からも思いを汲み取り、利用者が選択、決定しやすいように支援をしている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>起床、食事、入浴の時間等利用者の意向や体調に合わせて生活できるように支援している。</li> <li>何事も本人のペースを大切にして、その人らしく暮らしていただけるように支援をしている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>散髪の希望があれば地域の美容院に来ていただいている。</li> <li>行きつけの美容院がある方は予約や送迎等の支援をしている。</li> <li>利用者のこだわりに添えるように支援をしている。</li> </ul>		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの嗜好については聞き取りや摂取状況により把握している。</li> <li>食材の下ごしらえ、味付け、盛り付け、食器洗い、食器拭き等は入居者みなで協力しながら行なわれる。</li> </ul>	女性の入居者が多く、みんなで「食べごしらえ」に参加している。「こりや、私が作ったんじゃやけー、うまいよ」と食卓を囲んでの談笑も賑やかである。県の在宅訪問栄養ケアモデル事業所として、管理栄養士の指導も受けている。	

自己評価	外部評価	項 目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの嗜好と摂取量にあわせ食事は提供できている。また、栄養バランスを考えたメニューの工夫を行なっている。</li> <li>水分量が少ない方には合間にも摂取できるようにしている。</li> </ul>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食後は口腔ケアを促し義歯のある方は毎晩ポリドントに浸けて洗浄している。</li> <li>口腔ケアをしっかりと行うことで誤嚥性肺炎の予防にも努めている。</li> </ul>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの排泄パターンを把握しその人に合わせた介助を行っている。</li> <li>また、過介助にならないように、できることは自分でしていただくようにしている。</li> </ul>	<p>自立した行動、トイレでの排泄、過度の介助にならないよう、一人ひとりの生活習慣に応じた支援を行っている。京都・むつき庵主催の「おむつフitter研修」を終えた職員も在籍し、相手の気持ちを大切に、快適な排泄ケアを目指している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりにあわせた排便コントロールを行なっている(下剤、座薬、洗腸)。</li> <li>水分量や水分の種類、適度な運動、腹部マッサージ等を行うことで排便につながる取り組みを行なっている。</li> </ul>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの希望や今までの生活パターン、習慣に合わせて入浴をいただいている。</li> </ul>	<p>入浴設備の特徴として、通常の入浴室のほかに、別に重度化に備え、本人も介護者にも負担の少ない特別仕様の浴室が設けられている。入浴支援においても入浴時間など個別対応の取組みを強化している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>・一人ひとりの今までの生活に考慮した環境整備を行い、居室で安心して過ごせる空間・寝間を作って夜間良眠していただけように取り組んでいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>・薬の目的や用法等の把握に努め確実な服薬介助を行っており、状態変化の早期発見に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>・一人ひとりの力を活かせるような役割を提供できるように取り組んでいる。また、行事があるときなどは皆さんで楽しんでいただけるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>・天気のよい日には外の空気に触れていただけるようドライブや散歩、買い物など外出の機会を作るようにしている。</p>	<p>近隣住民に温かく見守られ、毎日の食材の買い物、整髪など生活に即した外出と、要望に応じて、近くの三次ワイナリー、道の駅、歴史資料館などにドライブをかね、職員または家族と一緒に外出している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>・預かり金など金銭は、事業所で管理しているが、必要な時には必要に応じてお金を使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の希望時には、速やかに電話が使えるようにしている。</li> <li>・郵便や荷物が届いた時には必ず本人に手渡し、職員と一緒に確認を行なっている。(家族の希望時にはご家族にも連絡を行なっている。)</li> </ul>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有の空間は常に清潔に気をつけ、温度調整等を行っている。</li> <li>・玄関や各テーブルには入居者が育てられた季節の花などを飾り目に見えるように配慮している。</li> <li>・ホールの窓は大きく中庭や外が良く見え、開放感がある設計となっている。</li> </ul>	<p>建屋は、木造平屋の南向きで、冬は暖かく、夏は涼しさを感じる天然の採光に工夫を凝らしている。「縁側機能」を基本設計に織り込み、共用空間を「ホール」と呼び、昼間はホールの寄合に参加し、夜は「自分の家」に帰って休む、めりはりの利いた生活リズムを保つ設計である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用空間のところどころにソファやイスを配置してあり、面会者とゆっくり過ごせたり、自由に好きところで過ごせるようにしている。</li> <li>・クッションなども配備し希望者には安楽に座っていただけるように配慮している。</li> </ul>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には使い慣れた小物や家具を自由に置いていただいている。</li> <li>・入居時には、持ってこられるもの配置等を本人、家族と相談しながら部屋作りを行なっている。</li> <li>・掃除方法や配置等も入居者と相談しながら行なっている。</li> </ul>	<p>「自分の家」として、個別化、プライバシーの保持、照明は暖色系を用い、安らぎを演出した居室整備である。基本設備として、空調設備、ベッドのほか、畳の生活を希望する人には特別サイズの畳も準備され、個別の多様な生活スタイルに対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室、トイレ、風呂場などの場所が分かりやすいように本人のお好きな暖簾や表札を掛けている。</li> <li>・館内の目に付くところに日めくりや月毎のカレンダーを設置し、日付がわかるようにしている。</li> <li>・洗濯機にはボタンに番号をつけるなど入居者が自分で操作できるように工夫している。</li> </ul>		

V アウトカム項目( ひだまり ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ふれあいの家えんや

作成日 2017.9.12 (10.10追記)

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	日々の関わりが当たり前になり、「なぜ」を考えなくなっている。	今まで以上に各職員が、その方その方にあつた声かけ・対応ができるようになる。	認知症に関する研修やカンファレンスを実施し、関わるご入居者対職員への尊厳やプライバシーとは、を各職員が考える機会を作る。	認知症についての施設内研修9月実施。今年度中に研修を重ねていく。
2	35	火災以外の災害についてが手薄になっている。	風水害や地震について、職員やご入居者の防災意識を高める。	風水害や地震についてのマニュアル見直しや訓練を実施し、職員やご入居者の防災意識を高める。	10/26地震後の火災発生として立会い避難訓練実施。マニュアル等今年度で見直し行なう。
3	4	会議録が読みづらい。	第三者が見てもわかりやすい会議録を作る。	見出しや項目に分けるなどしていく。	9月分より見直し、実施している。
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。